

平成 30 年度 川口市行政評価外部評価委員会に対する

ご意見及び回答

〔 回答:企画経営課 〕

1	意見	企業であれば売り上げや利益等、経営の重大な指標があり、それに沿って経営していくが、行政では指標を定めること自体が難しいと感じた。
	回答	事業によっては、事業の性質上、「外的要因によって実績が左右される事業」や「成果の数値化、把握が困難な事業」等、指標を設定することが困難な事業もありますが、評価の妥当性を検証するために、極力、指標を設定いただくよう事業担当課にお願いしております。来年度の行政評価につきましても、現状のまま進めていきたいと考えております。

2	意見	行政の仕事は以前にも増して複雑になっているとともに、非常に多くの事業を実施していると感じた。廃止してもいいような事業もあるだろうが、多文化共生推進事業のように、今後拡大していかなければならない事業も多々あるのだと感じた。
	回答	評価の視点につきましては、事業仕分けのような視点だけでなく、事業の有効性をはじめとして、今後の方向性や施設のあり方等、さまざまな観点で評価を行っていきたいと考えております。多文化共生推進事業のように、今後拡大していかなければならない事業につきましても、事業の効果検証を行うことで、事業の重要性や今後の方向性に対する事業担当課の考え方等を認識することができることから、引き続き、評価の対象事業として考えてまいりたいと存じます。

3	意見	事業評価の対象となった担当課は、どのような指摘を受けるのかと身構えることもあるだろうが、外部評価委員に反発するのではなく、お互いが理解することが大事である。質疑応答ではなく、議論することによりコミュニケーションを図ることができれば、今後、事業を実施するうえで、より役立つのではないかと思う。
	回答	ヒアリングにあたり、事業担当課は評価結果を予算に反映するという点もあり、身構えてしまうところがあるという点は、事務局も感じているところでございます。今回いただいた意見を踏まえ、来年度の外部評価委員会では、部会において委員の皆さまと事業担当課の職員がコミュニケーションを図りながら、より柔軟な議論ができるよう、事前に事務局が事業担当課と打合せを行い、評価の対象となった趣旨等を説明し、情報の共有に努めることを検討しております。また、併せて、今年度は評価事業が 8 事業で、各部会 3 枠での評価でしたが、来年度はより深く議論を行っていただくため、評価事業数及び評価事業枠を縮小することも検討しております。

4	意見	職員にとって、事業を評価され、委員と議論を行うことは、研修の一つでもあるし、職員能力を向上させるための大きな一つの機会でもあると思う。担当課による説明能力の向上など、職員の能力開発に役立つことがあれば、この会議を行っている意義を感じることができると思う。
	回答	ご指摘いただいたとおり、外部評価委員会は、職員の説明能力等を高める貴重な機会となっていると考えております。また、民間企業や市民の視点からご意見をいただくことで、事業担当課が客観的に事業への理解を深める良いきっかけになっていると考えているところでございます。